

プロジェクト サーモン的一大産地化

目標

・海面養殖サーモン生産量 R4：1,676t → R10：10,000t

挑戦する内容

- ・新たなプレーヤーの掘り起こし
- ・効率的な養殖手法の確立
- ・県産魚粉を用いた飼料開発
- ・既存プレーヤーとの連携強化
- ・ブランド力強化に向けた他産地サーモンとの差別化

関係者の声
＝対話

- ・養殖規模の拡大が必要（養殖業者）
- ・養殖コスト増大が課題（養殖業者）
- ・「獲る漁業」から「つくり育てる漁業」への転換が必要（漁業団体（沿岸））
- ・競合する他産地サーモンとの差別化が必要（養殖業者）

役割分担

- ・漁業団体（沿岸）：新たなプレーヤーの掘り起こし
- ・養殖業者：実証試験の実施、マニュアル素案の作成
- ・産技センター：県産魚粉を用いた飼料給餌実証試験、品質管理技術開発
- ・県：新たなプレーヤーの掘り起こし、効率的養殖手法の確立に向けた実証試験の支援、マニュアル作成

変革後の姿

- ・新規プレーヤーの参入、効率的な養殖手法の普及により、海面養殖サーモン生産量が増加
- ・県産魚粉配合飼料の開発・普及による他産地サーモンとの差別化により、漁業所得が向上し経営が安定
- ・品質の「見える化」により、県産サーモンの競争力が向上

令和8年度計画

挑戦する内容

- 1 新たなプレーヤーの掘り起こし
 - ・現地調査による新たなサーモン海面養殖を担うプレーヤーの掘り起こし
 - ・内水面養魚場とさけ・ますふ化場での現地調査による、新たな種苗生産を担うプレーヤーの掘り起こし
- 2 効率的な養殖手法の確立
 - ・波浪や潮流の影響が強く厳しい海況にある津軽海峡海域において、養殖効率向上を目指した実証試験を実施
 - ・実証試験により得られたデータを基に、サーモン養殖を広く普及することを目指したマニュアルを作成
- 3 県産魚粉を用いた飼料開発
 - ・県内で生産される魚粉等を原料とすることによる優位性、品質向上効果等を検討
- 4 既存プレーヤーとの連携強化
 - ・施設や機器導入に向けた補助事業活用や、既存のさけ・ますふ化場や民間養魚場を活用した種苗確保を促進し、生産規模拡大を推進
- 5 ブランド力強化に向けた他産地サーモンとの差別化
 - ・品質管理の「見える化」に向けた技術開発による本県サーモンの競争力を強化



海面でのサーモン養殖



海面養殖サーモン

対話

- ・現地調査による意見交換、情報交換を実施し、新規参入促進に向けた意見を集約（4月、7月、12月、3月）
- ・部会を開催し、事業の進捗状況を把握するとともに、意見を参考に事業構築（7月、1月）
- ・増養殖検討会を開催し、関係団体等とサーモン養殖の推進について意見交換し、事業構築に反映（年3回）
- ・既存プレーヤーとの意見交換を随時実施